

中川村の中長期の主な事業と財政見通し【中川村主要事業中長期計画(R7~R16)に係る財政分析より】 令和7年11月 中川村

◇この資料の目的と対象期間等

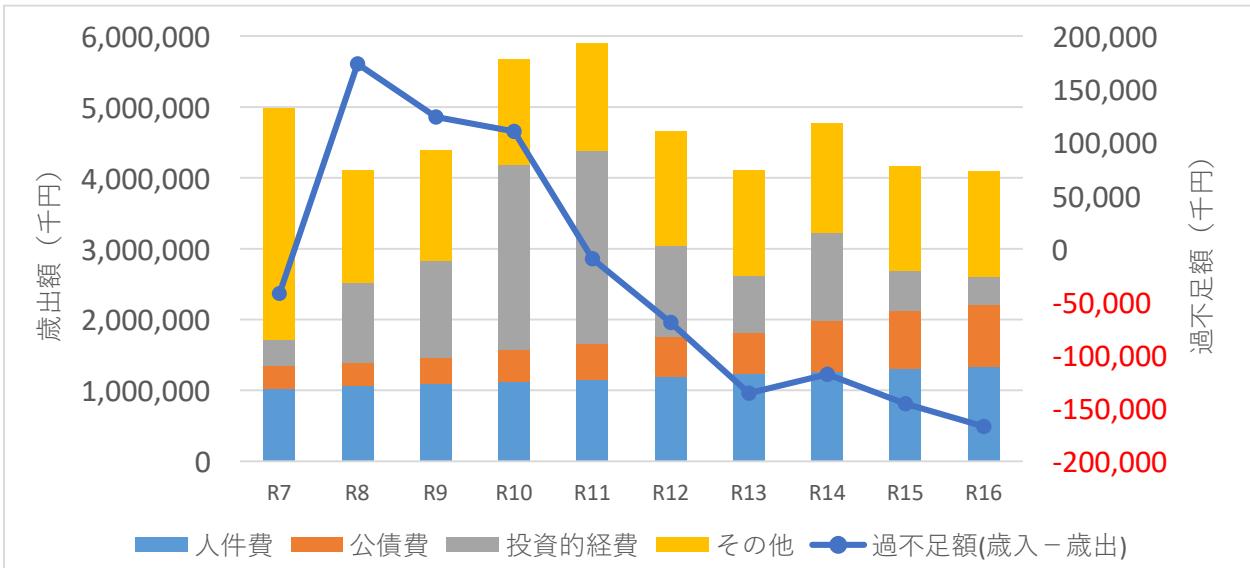
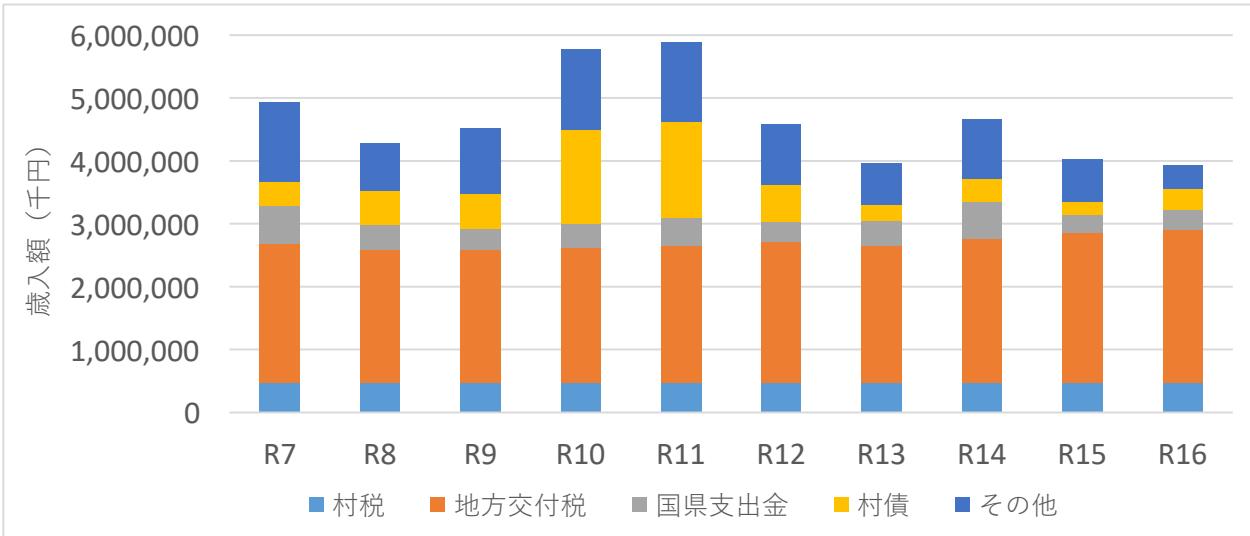
【目的】将来の大きな事業を進めるため、村の財政状況を見通し、必要な対策を考える
 【期間】令和7年度～令和16年度(今後約10年) 【対象】一般会計(村の基本的なお財布)

◇予定している主な事業

- 新しい学校の建設が大きな柱となるほか、小和田圃場整備事業や公営住宅移転事業、農産物加工施設改修事業など、40件を超える大型事業が計画されています。
- 期間中における現時点の概算事業費は約137億円です。
- ※今後追加が見込まれる事業(財政の見通し上は含まれていない事業)は以下のとおり
 - ・今後策定予定の立地適正化計画に関連する一部の事業
 - ・望岳荘大規模改修、小学校2校の後利用、チャオ周辺整備、統合保育園整備 等

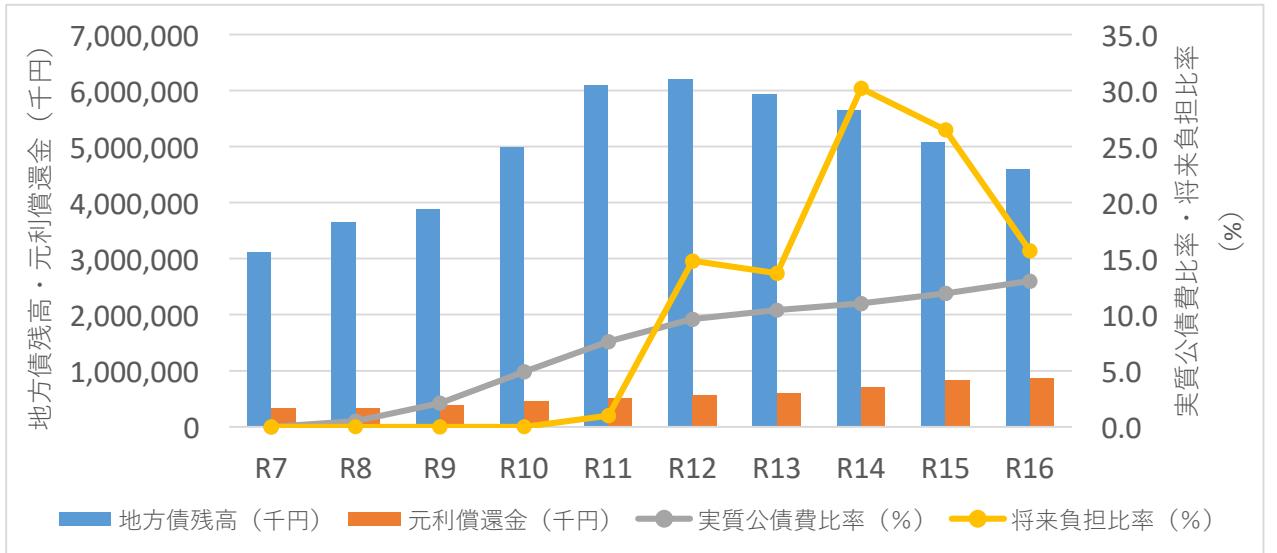
◇財政の見通し(ポイント)

- 令和10～11年度は学校建設が本格化し、借入(地方債)と工事費が一時的に大きく増え、例年より大きな予算規模になります。
- 令和11年度以降、歳出(出費)が歳入(収入)を上回ることが見込まれます。不足分は基金(貯金)を取り崩して対応する見込みです。



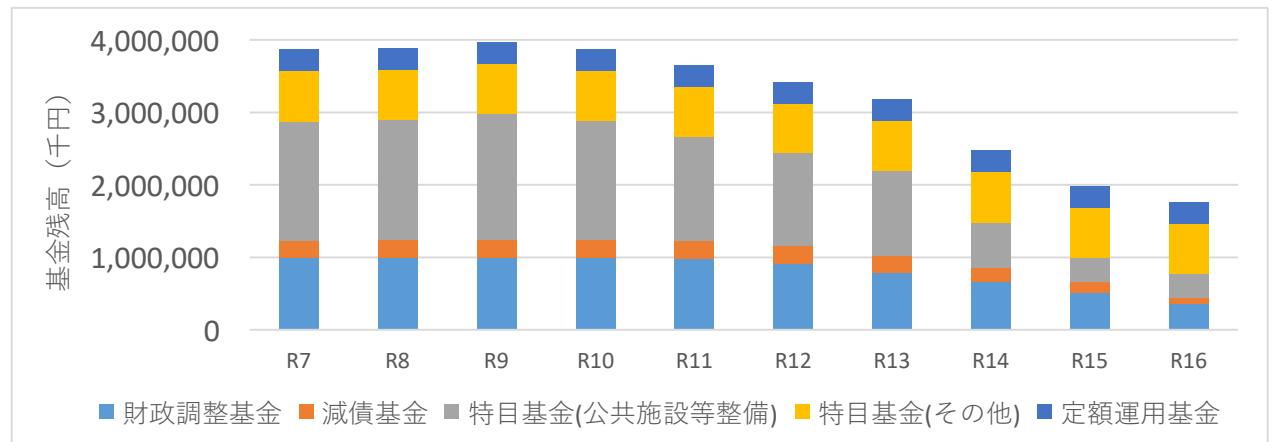
◇将来の負担の見え方

- 実質公債費比率(返済負担の重さの目安)は、返済額(公債費)の増により当面高めで推移する見込みです。
- 将来負担比率(将来の実質的な負債の重さの目安)は、基金減少と借入増で令和14年度をピークに悪化する見込みです。



◇村の貯金(基金)の見通し

- 基金総額は約58%減(39.7億円→約16.7億円)
- 公共施設等整備基金は学校建設以降に取り崩しが進み、約80%減(17.4億円→3.2億円)
- 財政調整基金は赤字補填で取り崩しが進み、約65%減(9.9億円→3.5億円)



◇今後、村が取り組むべきこと

- 【歳入の確保】
 - 産業活性化、企業誘致、交流人口の拡大、若者・子育て世代向け施策の創出
 - ふるさと納税等の拡大、受益者負担の適正化
 - 国県補助の獲得と有利な起債活用、休眠基金の整理・再編 等
- 【歳出の適正化】
 - 各種事業の費用対効果検証と継続の見直し、事業検討(縮小・延期・廃止)
 - 補助金の検証、ICT活用による効率化
 - 公共施設の集約・複合化・廃止や運営方法見直し 等